

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	眼窩閉鎖型骨折の治療時期と術後成績の関係
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 天野哲也
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 教授(特任) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2013年5月から2025年12月までに眼窩骨折で当科を受診した患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2027年3月31日
研究目的及び利用方法	<p>〔研究目的〕</p> <p>眼窩骨折とは、眼窩(眼球が収まる骨のくぼみ)を構成する骨が骨折することですが、骨弾性の高い場合(若木のようにしなる)に、一度折れた骨が元の位置に戻ってしまい、骨折部に筋や脂肪、神経が挟まってしまう場合があります。これを閉鎖型骨折と呼びます。筋と神経が挟まった際には手術が必要となります。筋が挟まった場合は、4日以内に手術が必要とされています。しかし、4日以上経過した際の術後経過に関しては不明な点が多いです。また、筋が挟まった症例以外においては、14日以内の手術が推奨されていますが、神経が挟まった症例の適切な整復時期について、これまでに検討されたことはありません。本研究では、閉鎖型眼窩骨折症例を筋が挟まった症例と神経が挟まった症例に分け、それぞれ4日、14日より早くもしくは遅く手術した症例に細分化して、手術の成績を比較することを目的としています。</p> <p>〔利用方法〕</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。またCT画像も確認します。得られたデータから、上記の比較を統計学的に行います。</p> <p>〔外部への試料・情報の提供〕</p> <p>非該当</p> <p>〔外部への提供開始日〕</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：非該当</p> <p>情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、患側、受傷原因、受傷から手術までの期間、Hessチャート、両眼単一視野、画像検査に関する情報を収集。</p>
提供する試料・情報を用いる学外の研究	非該当

責任者	
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025年11月30日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)